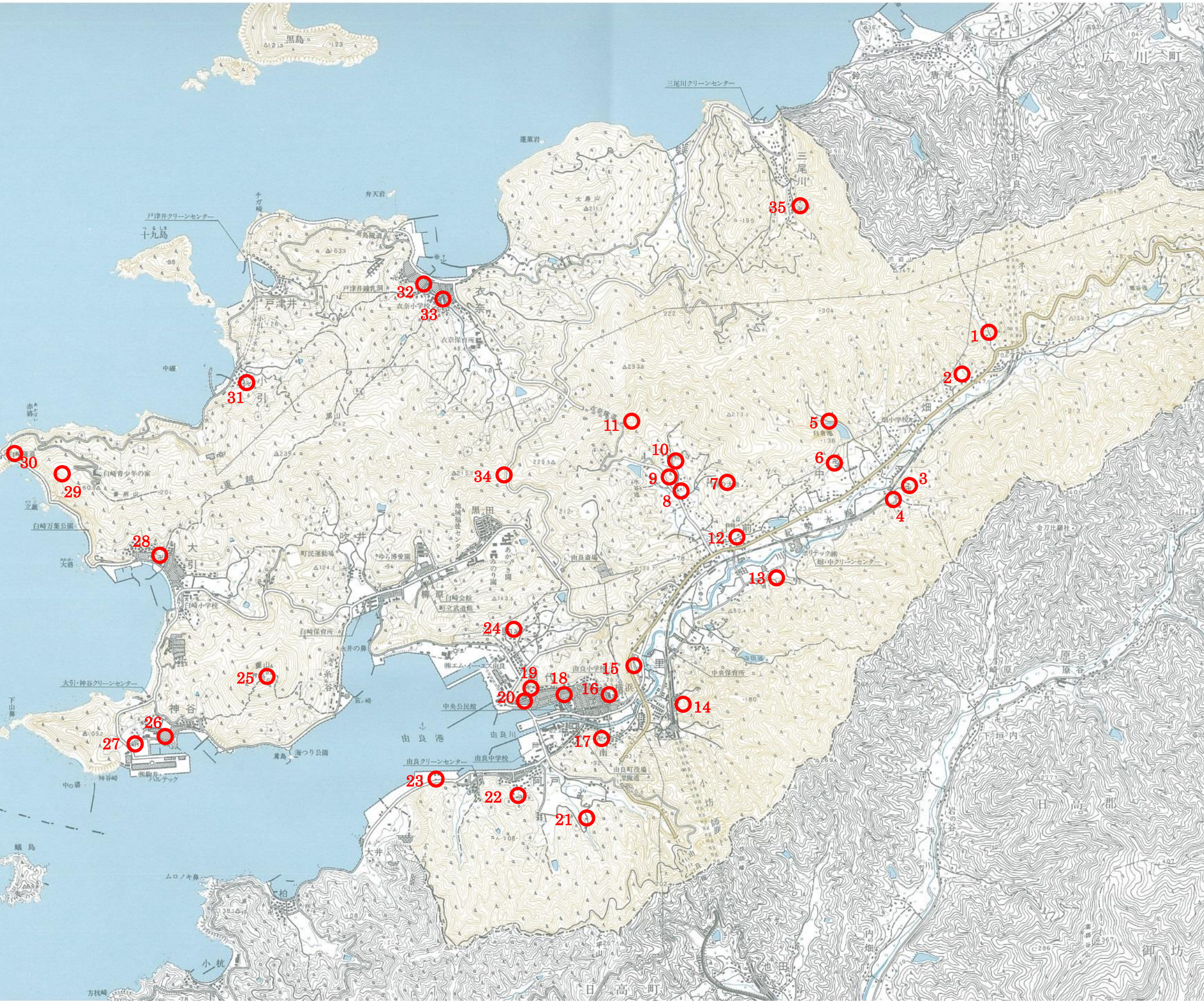




由良町文化財説明板所在地図



由良町教育委員会

1 由良坂

この道は有田郡に通じる主要な道路で、鎌倉時代には使われていたと考えられ、昭和三年に国鉄紀勢西線が紀伊由良駅の開通した後も広く利用されてきました。

近くには熊野古道、鹿ヶ瀬峠があります。



2 念仏寺跡

念仏寺は臨済宗の寺であったが、昭和五十年一月に廃寺となり、ご本尊の木造如意輪観音、石造延命地蔵菩薩、石造薬師如来（阿弥陀如来か）は、寺跡の畑老人憩いの家に祀られています。

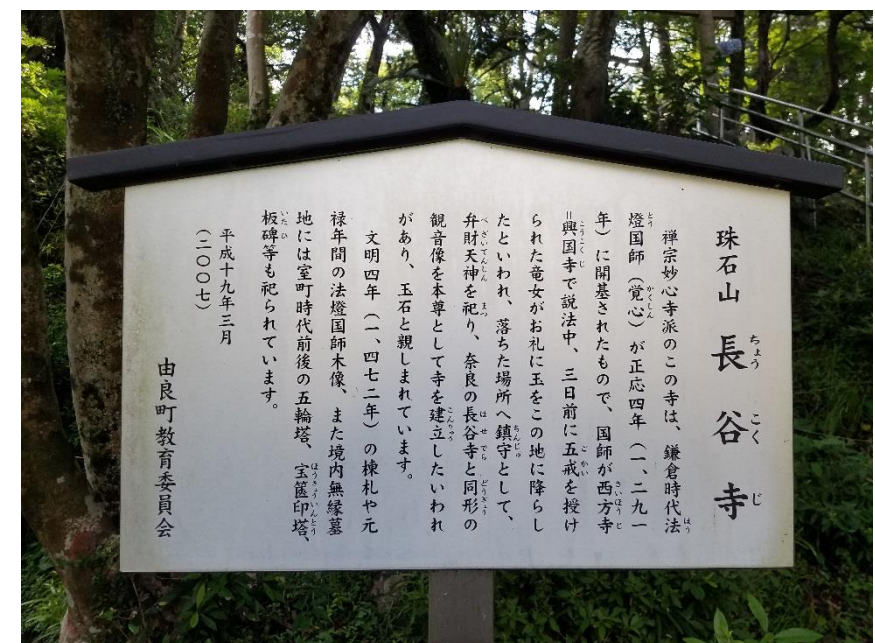
畑区、上組の六斎念仏講の観音画像や元禄六年（一六九三）の名号碑が残され古くから六斎念仏講が、地元で行われています。



3 長谷寺

禅宗妙心寺派のこの寺は、鎌倉時代法燈国師（覚心）が正応四年（一二九一年）に開基されたもので、国師が西方寺＝興国寺で説法中、三日前に五戒を授けられた竜女がお礼に玉をこの地に降らしたといわれ、落ちた場所へ鎮守として、弁財天神を祀り、奈良の長谷寺と同形の観音像を本尊として寺を建立したといわれがあり、玉石と親しまれています。

文明四年（一四七二年）の棟札や元禄年間の法燈国師木像、また境内無縁墓地には室町時代前後の五輪塔、宝篋印塔、板碑等も祀られています。



4 板碑地蔵

畦に祀られている地蔵さんは、通称慶所の地蔵さんと呼ばれ、総高（露出部）五十一糎、中二十二糎で板碑に地蔵菩薩立像が彫られています。

板碑とは板の様に薄い石に二条線を刻んだ供養塔であり、ほぼ中世（鎌倉～室町時代）に限られています。

板碑は町内に二十基余り祀られているが、地蔵像を刻んだものは一体だけである。

また、仏坂への通行の人たちが拝所より畦越しに拝むめずらしい形である。



5 白山神社

「白山妙理大権現」の掲額がある白山神社は、鎌倉時代に、興国寺開山法燈国師が加賀の白山（白山比咩神社）から勧請したものです。

当初、白倉池の南西の狐岩の下に祀られていたが、白倉谷に移され、後に、文久二年（一八六二）池の堤防嵩置のため社地が水没する事になり、現在地に移されました。

祭神は白山権現、天照大御神、熊野権現などを祀っています。

歯痛止めの神様として、厚い信仰を受けています。



6 東泉寺の宝篋印塔

境内には、三基の宝篋印塔が祀られている。東泉寺は元浄土宗であったともいわれ、江戸時代初期に三尾川の鷺林寺と交換されて臨済宗に改宗したものと伝えられている。

天正から慶長（一五七三～一六一五）の建立と伝えられる寺の開基よりも宝篋印塔の方が古いと思われる。

- ①高さ 八二センチ 宝珠を欠く
- ②高さ 一〇四センチ 宝珠を欠く
- ③高さ 一一五センチ

三基とも室町時代ごろの作と考えられる。



7 門前の大岩

この岩は、今より一億五千万年ほど前の中世ジュラ紀に成立した鳥ノ巣石灰岩という堆積岩からなり、岩の中には、全国でも数カ所しか確認されていないシダリスの棘の化石が多数包蔵されていることから、国の天然記念物に指定されている。（昭和十年十二月指定）

シダリスは、熱帯の海にすんだウニの一種で、主に長さ二cm前後の太い棘の部分が化石となっている。



8 土生庵跡

この場所は興国寺創建に寄与した坂上金吾（横浜・宇佐八幡神社神主）の娘（法名覚性）が土生庵を建てた所です。

覚性は法燈国師が亡き母の墓へ日参するのを知り、国師の徳を敬愛し、出家して嫁ぎ先高家の庄（日高町）から此所に移り住み、国師墓参の帰路に湯茶の接待をしたと伝えられています。



9 興国寺

本寺は葛山五郎景倫（願性）が鎌倉三代将軍源実朝の菩提を弔うため、安貞元年（1227）真言宗「西方寺」として建立された。

正嘉2年（1258）心地覚心（法燈国師）が宗旨を禅宗に改めると、「関南第一禅林」として栄え、多くの高名な僧を輩出した。

覚心は永仁6年（1298）示寂、その後国師号を授かり、興国元年（1340）には後村上天皇から興国寺号を賜ったと伝えられる。

天正13年（1585）羽柴秀吉の紀州攻めで堂塔の大半を失ったが、紀州藩浅野家・徳川家代々の藩主の庇護のもと復興された。

他に普化尺八の本寺、「径山寺味噌」「醤油」のわが国発祥の地として知られている。

国指定重要文化財

- 木造 法燈国師坐像（鎌倉時代）
- 絹本着色 法燈国師像（ 〃 ）
- 紙本墨書 誓度院規式（ 〃 ）



10 由良守応の墓

文政十年（一八二七）、門前村に生まれた由良弥太次（＝守応。号は義溪）は、幕末の志士として活躍、明治新政府に仕え、後藤象次郎、陸奥宗光などと親交をもち、岩倉具視の欧米使節団の一員として先進文化を吸収、帰国後、東京で二階建乗合馬車「千里軒」の開業など、我が国文明開化の先駆的な事業を数多く創立した業績は大きい。

明治二十七年（一八九四）三月、六十七歳でその生涯を閉じる。



11 徳本上人名号碑

この「南無阿弥陀仏」の碑は日高町が生んだ浄土宗の名僧徳本行者（一七五八～一八一八）のもので、元は少し上の衣奈へ行く旧道のそばに祀られていたが、十数年前からこの場所に移されています。

名号碑は文政元年（一八一八）十二月に建立されたものです。

念仏行者の徳を慕い、旅の安全を祈るため、峠や休憩す場所の道端に多く祀られています。

町内にもう一基、畑老人憩いの家横（由良坂にあった）が祀られています。



12 由良守応生誕地

文政十年（一八二七）、由良弥三兵衛の長男として、この地に生まれた由良弥太次（守応）は、幕末の志士として活躍、伊藤博文、陸奥宗光などと親交を保ち、明治の新政府に仕えた。岩倉具視が欧米諸国を歴訪の際、その随員として先進文化に接し、帰国後、二階建て乗合馬車「千里軒」の開業や、「大日本発動機製造会社」の設立など当時の最先端を行く産業に手腕を發揮したが、惜しくも明治二十七年三月、六十七歳でその生涯を閉じた。



13 佐兵衛前屋敷跡

この城跡は、天正の頃の由良庄左衛門の居城で、その先祖は後鳥羽院の後修明門院領時代の代官伊王左衛門能茂入道西蓮の子孫であろうと「紀伊続風土記」門前村の条に記されている。

この一帯を佃と呼ぶが、地名から察して莊園領主の直轄地があり、当初に庄官の居館があったとも考えられる。

城跡は、高台、屋敷跡、付属建物跡の三区画に分れ、高台や空堀などの遺構から屋敷（館）に防御設備を施した屋敷城であったことがうかがえる。



14 護国寺跡

「法燈国師縁起」によると、永仁五年（一二九七）、興国寺の開山・法燈国師（覚心）が宋（中国）の千師・無門和尚を偈び、西方を望めるこの地に、宋の靈洞山護国寺にならって一寺を建立し、その名も護国寺と号したと言われています。

現在も、ここに宝篋印塔や五輪塔が残され、また、この地から護国寺創建当時のものと推定される硬質の丸瓦や平瓦が出土しています。



15 漣井戸

興国寺の開山、法燈国師が、水不足に悩む近隣の民のために、堀りあてたと伝えられ、きれいな清水が、国師の足元まで湧きだしたという伝説から、法燈国師洗足井戸とも呼ばれている。

安政元年（一八五四）に当地を襲った津浪の記録によると、当時、横浜村の井戸は、海水が混じって、すべて使用できなくなったが、ただ一つ、この漣井戸だけは清水を湧きたたえ、村の人々の生活を救ったと記されている。



16 里Ⅱ遺跡

この遺跡は、昭和三十九年二月、由良小学校の建築工事の際発見されました。

この土器は、弥生時代前期のもので、ほぼ完全な形の壺に、口の部分が欠けた壺で蓋をするようにかぶせられて出土しました。すぐ近くに五世紀前半と推定される古式須恵器の有蓋高杯四個と甕一個が、鉄器片一個と共に整然と並べられていました。ほかに縄文時代晩期の土器片、古墳時代後期の須恵器片なども見つかっています。

由良町で発見されている遺跡の中でも重要な遺跡のひとつです。



17 飛び火名号古桜跡

ここ蓮専寺は岩本藤太夫（道西）が文明十七年（一四八五年）開基した浄土真宗の寺であり、蓮如上人直筆の名号（南無阿弥陀仏）を宝物として大事にしていた。

その掛軸が永正八年に盗難にあったが戻ったり、寛永三年（一六二六年）本堂の火事の時にも桜の木にかかって無事だったという。そのため飛び火の名号といい、その桜は明治初年に伐られた。

この寺には町の歴史を知る貴重な蓮専寺記録も残されている。



18 網代浦御制札場と安政の津波

この地、御制札場（札場）とは、生活上の禁止事項や守るべき掟を書いた制札を掲げた場所で、江戸時代当時の海岸線にあたり、網代浦の海に対する出入口として、船からの諸荷物の水揚げや、人々の往来で賑わっていた。

安政元年（一八五四）の大津波は、この地で高浪二丈四尺（七m余り・この寸法は隣地に今も残るビヤクシンとの比較による）に達し、横浜村百軒中八十軒余りと、網代村九十五軒中八十三軒の家が流失した。



19 会津の落武者墓（念興寺）

この寺の墓地最上段近くに、慶応四年（一八六八年）正月五日の鳥羽伏見の戦に敗れ、傷つき海路落ちのびて来て自害した二人の武士の墓が祀られている。

一基は慈光院釈信了＝俗名安部井留四郎という会津藩砲兵隊士であり、もう一基は勝解院釈信正＝俗名土肥仲蔵で、京都見廻組隊士のものである。土肥は慶応三年十一月十五日京都近江屋で土佐の坂本龍馬、中岡慎太郎を暗殺した七人の内の一人で見張役をしたといわれている。



20 御殿井戸

この井戸は紀州徳川家初代の殿様頼宣公が寛文六年（一六六六）別館を設け、網代御殿井戸と称した。のちに延宝二年（一六七四）に撤廃された。

この屋敷跡にあるのが御殿井戸である。紀州藩家老で歌人源令綱（渡辺能登守令綱）は

よせかへる 波は音にかはらねど
君をぞしたふ 由良の湊に

と詠っている。



21 阿戸の防空壕跡

第二次世界大戦がはげしくなると紀伊防備隊の防空壕が、この付近に設けられました。

この道すじには九か所、つらなっています。壕のなかには、衣類、電球、弾薬などが納められていたと言われています。



22 江南山天徳院 教専寺

浄土真宗のこの寺は、永正十一年（一五一四）若太夫＝西願が開基したといわれています。

文久四年（一八六四）正月六～七日 十四代将軍徳川家茂公の乗る軍艦翔鶴丸が大阪城へ向う際、由良港へ碇泊し当寺で、家茂公が休息入浴された時に使った風呂桶を保存しています。

境内の手洗石は、町内で最も古く、元禄元年（一六八八）のもので、

半鐘は元禄十二年（一六九九）のもので、「形見の片袖」にまつわる伝説があり、その供養に鑄造、寄進されたといわれています。



23 桜島跡

この地は覚心（法燈国師）が、建長六年（一二五六）宋から帰朝の際、白杭洲という所で錫杖と袈裟を忘れた所、錫杖は竜と化し、万里の波濤を泳いで、袈裟は霊亀の背に負われて来たという伝説の島であった。

しかし昭和五十七年（一九八二）の埋立で姿を消し、島に建てられていた石塔は公園に移された。



24 宝篋印塔 北星山専福寺

この基は室町時代の宝篋印塔で慶永三年（一三九六）三月廿七日の銘があり、用材は砂岩で九輪のかわりに五輪塔の空風輪をのせている。

総高六十糎、基礎部の半月形に彫られた中に弥陀尊容を半肉彫したもので、日高地方における在銘宝篋印塔としては最も古い。

この寺は現在浄土真宗であるが、昔は真言宗の寺であったという。真言宗の寺歴ははっきりしない。

墓地には同時代の五輪塔や板碑も残されている。



25 重山観音

この寺は昔、もっと山麓にあったようで、平安時代天台宗二世慈覚大師（円仁）が阿蘇山よりの帰途、暴風雨にあい由良港に難をさけ、薬師如来を本尊として海宝寺を建てたといわれています。

哲仙和尚が西国三十三番の札所を決める日に朝寝坊して札所からもれ、朝寝山がなまっていつしか重山（加実山）と、呼ばれるようになったといい伝えられています。

本堂の横手には室町時代か、もっと古い五輪塔や宝篋印塔が残されて昔の大寺が偲べれます。



26 伊能忠敬宿泊地

この場所は伊能忠敬らが宿泊した庄屋敷跡です。

日本の正確な地図を作成するために伊能忠敬ら一行は、全国各地を測量していきました。

文化二（一八〇五）年二月、江戸を出発して東海道の海岸線を測量しながら、同年八月一日朝から由良湾の測量を始め、横浜で昼食をとり、ここ神谷では、当時の庄屋岩崎喜兵衛の家と佐助の家で、一行が泊りました。

翌日、大引・衣奈海岸を測量していきました。



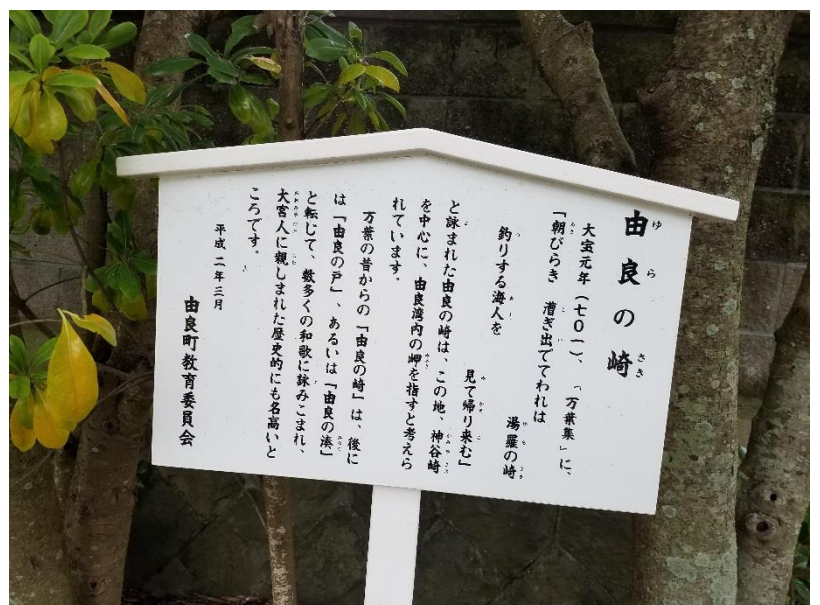
27 由良の崎

大宝元年（七〇一）、『万葉集』に、

「朝びらき 漕ぎ出てわれは 湯羅の崎
釣りする海人を 見て帰り来む」

と詠まれた由良の崎は、この地、神谷崎を中心に、由良湾内の岬を指すと考えられています。

万葉の昔からの「由良の崎」は、後には「由良の戸」、あるいは「由良の湊」と転じて、数多くの和歌に詠みこまれ、大宮人に親しまれた歴史的にも名高いところです。



28 浄明寺の半鐘

この半鐘は、町内の梵鐘・半鐘の中では最も古く、三〇〇年を超える貞享二年（一六八五）四月二十一日と彫られている。

半鐘には次の内容が記されている。

仁太夫の妻が、他界した父の菩提を弔うためにこの鐘を作り死後の冥福を祈って、この寺へ寄進したものである。

鑄造した人は和歌山北町の金屋・和閑次郎兵衛である。



29 白崎遠見番所跡

この史跡は、江戸時代初期に海防組織の一つとして設けられ、幕末まで異国船・不審船などの通過や停泊の看視にあたり、その情報を和歌山城などへ注進していた遠見番所跡です。

正式には白崎御番所と呼ばれ、紀州藩では十数カ所の番所があって、日高郡には白崎と御崎御番所（日ノ岬）の二カ所で、共に重要な役割をはたして来ましたが、

そのために三～五人の番人がいましたが、明治三年（一八七〇）に廃止されました。



30 人間魚雷「回天」基地跡

太平洋戦争の終りごろ、ここ白崎に人間魚雷「回天」の出撃基地（22突撃隊、由良白崎基地）が設営されました。

紀伊水道へ侵攻してくる連合国の艦船を攻撃するため、爆薬を充填した一人乗り潜水艇を操縦する特攻隊員（第16回天隊）が配属されていましたが、回天の配備が遅れ出撃することなく終戦となりました。



31 小引の道祖神

この石地蔵の中にある一体の双体像は石佛ではなく、神像です。

元は小引のお宮＝子安神社の境内近くにあったもので、明治四十一年の合祀後この寺に運んできて祀られているものです。

道祖神とは村境にあって疾病などが入らない様にする「さへの神」であり、地蔵信仰と結びついて信仰されてきた様です。

この双体の神像は江戸時代中期頃のものと思われませんが日高地方では数少ない貴重な文化財です。



32 衣奈遺跡

この遺跡は、昭和四十六年に衣奈小学校への進入道路工事の際発見されました。

縄文期の遺跡としては町内で最も土器片の出土量が多く、晩期の土器片（深鉢・浅鉢）や石器類（乳棒状石斧・大形石棒）が、道路脇の水田や現駐車場付近から出土しました。

このほか、弥生、古墳、それ以降の時代の遺物も出土しています。なかでも南側排水溝の水田地下から、江戸時代の上水道遺構かと考えられる瓦質の長さ二六センチの土管約二〇本が発見されました。

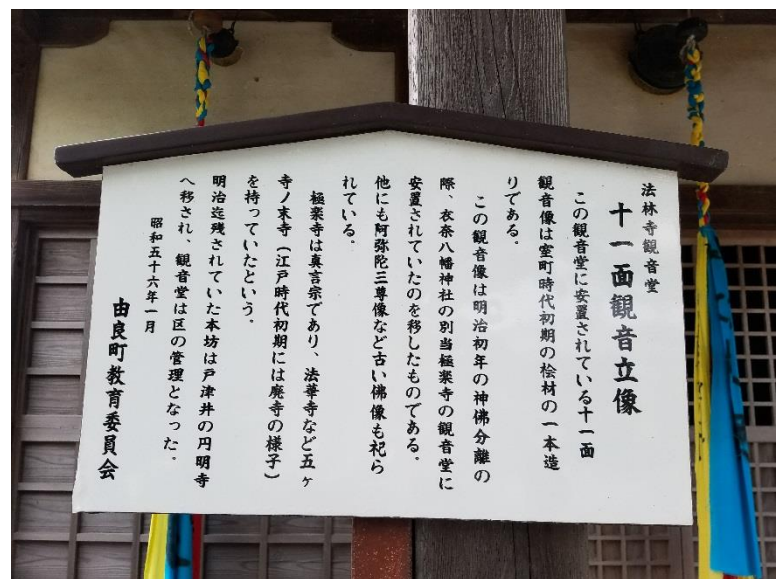


33 法林寺観音堂 十一面観音立像

この観音堂に安置されている十一面観音像は室町時代初期の桧材の一本造りである。

この観音像は明治初年の神佛分離の際、衣奈八幡神社の別当極楽寺の観音堂に安置されていたのを移したものである。他にも阿弥陀三尊像など古い佛像も祀られている。

極楽寺は真言宗であり、法華寺など五ヶ寺ノ末寺（江戸時代初期には廃寺の様子）を持っていたという。明治迄残されていた本坊は戸津井の円明寺へ移され、観音堂は区の管理となった。



34 音坂（黒田）の地蔵

音坂の地蔵は、地蔵さんとして祀られ、親しまれて来ましたが、五輪塔地輪部の上に安置された板碑です。

板碑とは、薄い板状の石に二条線を刻んだ武士の供養塔であり、中世（鎌倉～安土桃山時代）に限られています。

この板碑は、金剛界大日如来をあらわす梵字（バン）を円で囲みその下に蓮弁が刻まれています。町内の二十基余の板碑中でも二基しかなく、室町時代頃のものとおもわれる貴重なものです。



35 鷲林寺

西山浄土宗のこの寺は、安土桃山時代頃に禅宗寺院から改宗されたといわれています。

本堂には室町時代の禅僧の位牌、および、寛永十八年（一六四一）の法然上人や、中興の祖・適伝上人などの彩色木像が安置されています。

境内墓地には古い宝篋印塔、五輪塔数基もあり、元禄十一年（一六九八）の地蔵菩薩座像、石幢六地蔵、享保五年（一七二〇）の六斎講中の幡（幢）を持った地蔵菩薩など、めずらしい石仏が数多く祀られています。

